

礫叢書

アンソロジー

マキシミレーション 5

西園寺祥子

竹村 公作

高階 時子

内山 榮子

大畠 笙治

アソロジー

マキシミレーション5

(傑叢書第21篇)

一九九一年四月二十三日発行

著者——大畠笙治

〒669-31 兵庫県氷上郡山南町小畑  
一〇四

発行人——及川隆彦

発行所——ながらみ書房

〒101 東京都千代田区三崎町二—  
八—九 電 03(3234)2926  
振替 東京6—124298

印刷——大成舎

製本——丸山製本所

定価——2000円(本体1940円)

江苏工业学院图书馆  
藏书章

●アンソロジー

キシユミレーシ

装　　幀●菊池大作  
カ　　ット●堀　　慎吉

## 目 次

君は海彦  
西園寺祥子

解説◎妖なるうた◎角宮悦子

グッド・ラック  
竹村公作

解説◎一弦琴の価値◎水城春房

吉野せいノート  
高階時子

解説◎追体験の力◎北尾勲

## 深層の虹

内山榮子

解説◎明るさとつつましさ◎栗木京子

## ジャンキー・ブルー

大畠笙治

## シャノン・イエロー

解説◎極彩色の悪夢◎益永典子

## 解説にかえて

由良琢郎







【君は海彦】西園寺祥子

隔世遺伝

草も穂も刈りとられたる筒抜けを伸びて　ふふ　ふふ　咲く曼珠沙華

まんじゅしゃげ花首もりし仏膳ほとけぜんなつの死人にたんじゃうびきて

曼珠沙華笑ひさざめくただなかに家ありふたりの後家が棲みをり

古簞子に買値をつけて帰りたるところは祖母の死を値踏みする

きな臭き老婆の背せなのねんころろこの子も婆ばばもいらぬ人買ひ

つぎの朝縊<sup>くび</sup>れし婆に背負はれて見たる夕日がおもひだせない

夭折の祖父の写真が出<sup>い</sup>でてきつ冬日溜りにゆっくり反りぬ

どこの子かわかき蓬をざるに摘むわれもまぎれて△魂<sup>たま</sup>▽をつむなり

とり・きんぎよ・いぬ・ねこ 怨みを木の下に埋めしところ覚えてゐるか

百八つにあまりし椿を藪に捨て川を渡りて嫁ぎきにける

干しよもぎ祖母のにほひとおもひつつ隔世遺伝のわが身みごもる

きみは海彦

水分れのもろこし畑のくぼみにて蜻蛉<sup>とんぼ</sup>が風に△生▽をうみをり

いにしへは海の底にて候へばきみは海彦われを娶りぬ

職人の妻となりたるゆゑにして火をひろげつつ鬼板おにを焼きをり

打ちて焼き、焼きては打てる銅あかがねの鬼板となるまで　をとこが冴えて

清らかに夕闇は来つ鬼板焼きてゐたる榾火も灰となりつつ

しなやかに黄金<sup>きん</sup>のことばが目<sup>め</sup>にさやぐ栗柄峠<sup>きりぎりす</sup>の谷の山吹

雲水は花のごとしよ風の日<sup>ひ</sup>に訪<sup>ま</sup>ひきて風の道に消えたり

道端にしやがみて尿<sup>し</sup>する女童<sup>どうどう</sup> 涙ぐむまで春はたけにき



中国も蒙古もしらね  
黄沙ふる昼ひたひたと黄色人種

黄沙ふる野を押しゆけり  
ベビーカーねむれるものは眠れるままに

栗の木にくりの花咲くらぐらとわが血を頒ける子がひるがへる